

新年ご挨拶

2014 年を迎え明けておめでとうございます。

昨年 3 月末に大使として着任以来 9 ヶ月がたち、ルワンダの生活風土にも慣れてきたように思います。

今年はルワンダにとって、1994 年のジェノサイド以来 20 年という重要な年になります。

4 月 7 日のジェノサイド追悼記念日前後には、従来のアマホロ競技場での式典以外にも各種のイベントが国内外で開催される予定です。

我々日本人も改めてこの地で発生したジェノサイドとは何であったか、そしてそのような辛い過去を経験したルワンダの人々に対し如何なる協力が可能なのかについて考える機会にしたいと思います。

昨年は 6 月に横浜で行われた第 5 回アフリカ開発会議(TICAD V)にカガメ大統領が出席され、いくつかのセッションで議論をリードしてくださいました。TICAD V では経済協力にもまして、アフリカ諸国への民間投資の重要性が強調されました。私も日本からの民間投資が当地で実現できないか知恵を絞っているところです。

ルワンダはここ数年「アフリカの奇跡」と言われる経済成長を続けています。内陸国のハンディキャップを十分認識した上で、この国はその未来を ICT 産業と金融、更に航空分野に託しています。

私は当地勤務も未だ 1 年になりませんが、日々ルワンダ社会と接する中で、この国の発展の原動力として 2 つの制度の存在を指摘できるのではないかと感じています。

一つはウムガンダ（公共労働奉仕）です。毎月最終土曜日の午前中を国民全員が道路工事や植林や清掃などの公共奉仕に当てるのです。村落単位で民族や出自を越えた共同体意識を醸成し協働することにより、荒廃した国土をここまで蘇らせてきました。ただこの習慣は現政権が新たに導入したものではなく、伝統的にルワンダ社会に根付いていた制度と聞きます。

もう一つはイミヒゴ（業績目標契約）です。これは大統領が各大臣、各知事・市長、各大使にその年の業績目標を提示させ、1 年後にそれが達成されたかどうかをチェックするシステムです。優秀な成績を収めた者は表彰され、不十分な者は更迭などの厳しい措置が待っていると聞きます。各プレイヤーに競争を促すこのシステムはこの国の発展に有効に機能している様子です。

ルワンダは 6 年後の 2020 年には中所得国の仲間入りを目指しています。真面目で勤勉なルワンダ人であれば、それは不可能ではないでしょう。日本としてもルワンダの国造りに積極的に貢献していきたいと思っています。

改めて本年も宜しくお願いいたします。

平成 26 年 1 月

小川和也、駐ルワンダ大使